

河川から水利施設への断片の流入防止対策について

対策① ダストフェンスの設置

【特長】

- ・1mあたり約1.4kgと軽く、人力により短時間で設置可。
- ・展張ロープがネット下についており、ゴミ等を逃しにくい。
- ・1スパン（＝約2m）単位で購入可能。継ぎ足して使用可。

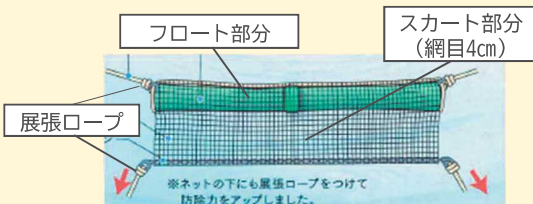
【作業時間の目安】

- ・約6mのフェンスを設置するのに、大人2名で1時間程度。

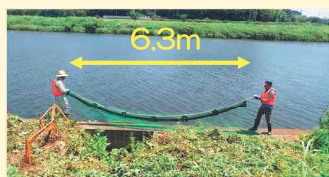
【価格の目安】

- ・フロート部分：約22,000円/1スパン
- ・スカート部分：約20,000円/1スパン・1m丈

※農研機構資料引用



ダストフェンスの構造図



ポンプ場の取水スクリーン前への設置の様子

対策② オイルフェンス等を用いた侵入防止フェンスの設置

【設置イメージ図】

オイルフェンスの周囲や中に浮遊しているゴミや植物片は、レーキや網を用いて毎日回収します。ナガエツルノゲイトウが含まれる場合もあるので、適切に処分しましょう。

【規格】

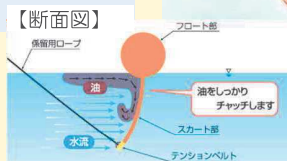
- ・1スパン10mで重さ12kg。（20m単位も有り）
- ・スカート丈は20～40cm程度。

【価格の目安】

- ・10mあたり50,000～100,000円



OKオイルフェンスBTの写真



フェンスを二重に設置することで、さらに侵入防止効果を高めることができます。

護岸工に直接アンカーで固定したり、単管パイプ等を河床に打設する等して、流されないよう固定します。

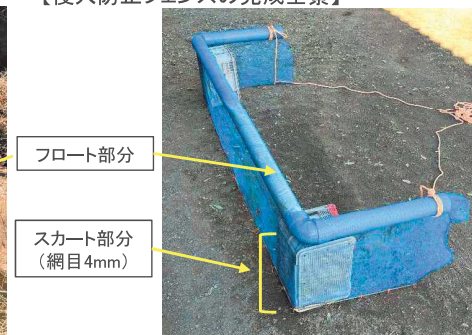
対策③ 塩ビ管を用いた侵入防止フェンスの設置

小規模な取水口で、オイルフェンス等の既製品が設置しにくい場合は、塩ビ管等を用いて、現場条件に合った簡易な侵入防止フェンスを設置することができます。

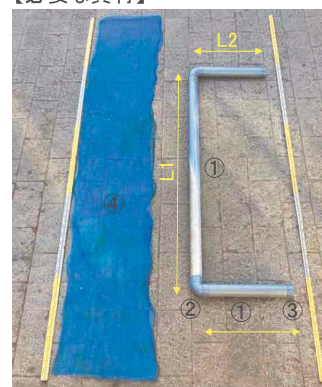
【設置状況】



【侵入防止フェンスの完成全景】



【必要な資材】



【資材一覧】

図番	資材（規格）名	数量	備考
①	VU管（φ100）	3m + 1m×2本	注）L1は4m程度まで
②	VU継手（90エルボ）	2個	
③	VU継手（チャップ）	2個	
④	防風ネット（網目4mm）またはブルーシート	高1m×長5m	（スカート部）50～60cm 現地の水深を
⑤	鉄筋棒（丸鋼φ6mm）	VU管延長に同じ	
⑥	固定用ロープ		

※波浪の影響を受ける場合は管の口径を大きく（ライト管φ150、180）し、フロート部の水上部の高さを高くします。浮力も大きくなるので、スカート部の重りに金属チェーンを用い、より安定させることができます。

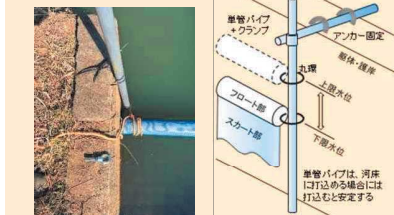
躯体・護岸工への固定方法

躯体や護岸工への固定は、次の点に注意しながら、設置する場所の条件に合わせて行います。

- ①波浪や水流等により流されないよう、必ずアンカー等を用いて固定します。
- ②水位の変動がある場合は、単管パイプとUシャックル・丸環等を用いて、水位の変化にフロートが追従出来るようにします。
- ③取水しない時期や洪水時等には、速やかに撤去できるように固定する。

＜参考図＞

＜設置状況（仮設置）＞



塩ビ管は中に水が入らないように継手としっかり糊付けする。



防風ネットを塩ビ管に巻き付けながら固定。ブルーシート等を使用する場合は10～15センチ間隔でハトメを用いて固定する。



水中でネットを安定させるため、ネットの下端に重りとなる鉄筋棒を取り付ける。